

2020年5月20日（水曜日）



## 【参議院国交委】足立敏之議員が提案「日本版ニューディール政策を」

足立敏之参議院議員は19日の参院国土交通委員会で質問に立ち、今後の経済対策に向け「日本版ニューディール政策」として、公共投資を確保し未来の日本を支えるインフラ整備を進めることを提案した。足立議員は新型コロナウイルスの感染拡大により、建設投資全体の縮小が見込まれると指摘。感染症が一定程度終息した段階では幅広い経済対策を行うことが必要になるとし、日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）の研究会が2017年に発表した「未来を拓くリーディング・プロジェクト」を参考に、政策の実現を求めた。特に「地方を元気付けるさまざまなプロジェクトに今こそ取り組むべきではないか」と訴えた。



「未来の日本を支えるインフラ整備を」と訴える足立議員

赤羽一嘉国土交通大臣は「社会資本の整備は未来への投資であると同時に、未来世代への責任でもある」と説明。新型コロナにより社会、生活、経済の在り方が変化を余儀なくされる中で「インフラ整備はどうしていくのかという議論はしなくてはならない」との考えを示した。リーディング・プロジェクトに対しては「国民の命と暮らしを守るプロジェクトは夢があり、意味もあり、地域にとっては誇りもある。プロジェクトは大きな動機付けになると思っているので、地方の経済発展や社会の在り方に資するプロジェクトを、できる範囲で精一杯取り組んでいきたい」と答弁した。

他にも工事・業務を継続することの重要性を強調し「極力現場を止めないで維持していただきたい」とした足立議員の要請に対し、青木一彦副大臣は直轄工事・業務の多くが継続していることを説明した上で、引き続き感染拡大防止対策を徹底しつつ、円滑な工事・業務の継続に取り組む姿勢を見せた。加えて国交省の取り組みは地方自治体にも周知しているとした。